

使つて友人や一般人に公開し、共感した人の反応も知ることが出来る。勿論、「見栄え」がする写真であることに越したことはない。

「縮み」志向の日本人は「インスタグラム」を「インスタ」、「見栄え」を「映え」に置き換えて「インスタ映え」という造語を編み出した。

私は、このソフトの機能には正直なところ余り驚かなかつた。写真を趣味にしている私は、十数年前からパソコンで国産のデジブックというソフトを使つて、似たようなこと、いやそれ以上のことをしてきたからだ。

旅行の記録にと、一眼レフのデジカメラで撮影した写真に音楽と解説文を添えて動画風に編集したり、CDに保存したりしている。一般公開も可能で、共感した閲覧者から「いいね」とメールがきた回数の記録も出る。

デジカメラの方がスマホ写真より画質がいい筈なのに、流行語が生まれるほどには普及していない。何故か。

デジカメラより安価で軽量、ポケットに収まるスマホが、若者層の人気を一気に凌いだのだ。

「インスタ映え」は2017年、日本経済に大きな影響を与えた。インスタグラムに投稿するために旅行・外食をしたスマホ携行者の消費行動が上位にランクインした。外食業界では「食べてもらう

2017年流行語大賞

霜田昭治（4／2・歩兵）

年末恒例の「2017ユーキャン新語・流行語大賞」に「インスタ映え」が選ばれた。

「インスタ映え」は、今まで見たことも聞いたこともなく、意味も分からない言葉だ。流行語なら殆どの人がご存知の筈だが、家内や何人かの友人に訊いてみたが知らなかつた。

ネットで調べた。

米国インスタグラム社が2010年に開発した無料写真共有ソフトで、スマートフォンに搭載している。利用者はスマホで撮った写真を、このソフトを

商品」が「撮ってもらう商品」になった。店舗の宣伝になり、広告費の削減効果が期待できる。国内外で、店内撮影OKの表示を掲げている店舗もあるそうだ。多くの企業がインスタ映えを意識した販売戦略を打ち出した。社寺ですら例外ではない。

先日、NHK・TVが放映した「インスタ映え・御朱印帖」では、本来地味な色合いの朱印帖を彩色し、社寺名を墨書した台紙には見映えよく挿絵を入れるなど工夫がこらされ、評判の社寺には朱印帖を手にとる者が列をなしていた。

それにしても「インスタ映え」なる造語は、私にはとても日本語とは思えない。流行語というからには、もう一工夫して欲しかった。

しかし、NHK・TVですら「インスタ映え・御朱印帖」を放映しているので、憤慨する私の方が時代遅れなのである。

ガラパゴス携帯電話（ガラケー）からスマホに乗り換えることにした。